

第1回ランチョンセミナー

「育種学会における男女共同参画を目指して Vol. 1 -女性研究者をとりまく環境-

開催報告

開催日時 2007年9月23日 12:30 - 13:30

開催場所 山形大学農学部

表記内容に関する本学会における第1回のセミナーを本学会の男女共同参画推進委員会を中心となって秋季大会期間中の昼食時に開催した。委員以外の参加者は、59名（男性40名、女性19名）であった。

はじめに、同委員会委員長である吉田薫氏より、我が国において女性研究者が少ない現状、その社会的背景と女性研究者の現状に関する調査結果、第3期科学技術基本計画において女性研究者の活躍の促進が定められていること、現在行われている科学技術振興調整費による支援をはじめとする取り組みの概略等について、紹介がなされた。また、学会活動に関わる事項として、男女共同参画学協会連絡会をはじめとする学協会の取り組みの紹介、ならびに、日本育種学会における現状の説明と学会に対する委員会からの要望が同氏よりなされた。さらに、同委員会委員より、学会全体として望ましい道筋を見つけ出していくことがこの委員会の第一の役割であり、そのために問題点を明らかにする必要があるため、意見を出してほしいとの意向が伝えられるとともに、女性研究者支援に関する大学等に対する予算措置の背景には学会組織からの積極的な発信が効果をもったと考えられることなど、学会における活動の意義について言及がなされた。

学会における実際的な活動に関することとして、委員長より、大会会場の近隣の託児施設を紹介していく予定であることが伝えられた。また、過去に女性会員が学会の役員等として学会活動に参加することを辞退する例がしばしばあったが、こうした活動は研究者間の交流の場となりうるものであり、長期的な視点に立って積極的に引き受けてほしいとの呼びかけがなされた。

会場からの意見として、任期つき雇用等による生活の不安定さを解消できるように学会としての提言を望むという意見、ならびに、学会によってこの問題に関する取り組みの程度に差があるようだが本学会として今後どのような取り組みを考えているのかとの指摘があった。後者に関して、今回のようなセミナーはもとより、ホームページ等を通じて、本学会が参加している学協会連絡会を通して得られる他学会や大学等の研究機関での取り組みを紹介するなど、情報の提供を充実させていくという方針が伝えられた。本委員会としては、この問題は、現在、研究者である方々の問題であると同時に、これから研究者を志望する世代の人にとっての問題でもあることから、現在の状況、その背景となっていることがら、さらにこのことに対して社会でどのような取り組みがなされているのか、ということに関して、学会内外に対して認知度を上げるようにしていくことが重要であると考え

ている。この他、会場から、大会開催時の託児施設に関して、過去の大会で行った事例の紹介や、大学に託児所がある場合にその利用を検討してはどうかという意見等があった。また、本学会としてこうした活動を円滑に進めていくためには財政基盤が不可欠であり、それを検討していく段階にあるとの意見があった。現状では、学協会連絡会の活動への参加に関わる費用、ならびにシンポジウムの開催の費用が予算化されている。今後の学会としての取り組みによっては、これらのこと以外に対する予算措置が必要になるものと考えられる。

セミナーの最後に、谷坂隆俊会長から、我が国においては、これからは社会構造と同じく研究者集団を構成する人々の年齢層が上がっていく状況にあり、この問題に関して幅広い年齢層にわたる理解が重要になるということ、また、学会として本委員会の活動に全面的に協力していく方針であるということが述べられた。

セミナー会場においてアンケート用紙が配布され、多くの方々から回答をいただいた。いただいたご意見を今後の本委員会の活動に大いに反映させていきたいと考えている。次回のセミナーは、2008年春季大会期間中に開催することを予定しており、それ以降は、年1回、春季大会において開催していく予定である。(文責：金澤 章)